

管外視察報告

総務委員会

総務委員長 小林 喜美治

平成21年5月11日～13日

広島県 安芸高田市
島根県 浜田市
山口県 宇部市

◎広島県安芸高田市

振興会の住民自治活動とその支援について広島県安芸高田市（あきたかたし）を視察しました。

まちづくりの基本に「住民との協働」を掲げ、市内32地域に住民のコミュニティ組織「地域振興会」と6つの連絡協議会を設け、まちづくりに自分たちの声が届く仕組みを立ち上げています。32の地区振興会は、もともと大字、町、村の中の大きな区域や、小学校区といった昔からのまとまりを中心にして出来ています。水害を契機として川

根地区が先進的な活動をしており、これをモデルに旧6町に地区振興会を立ち上げています。

住民自治活動への行政側の支援は、地域活動に伴う組織運営や事業活動に対し一定の財政支援、職員が地域振興会の事務的なサポートを含め地域活動への積極的な参加の中で、各種制度の紹介や市内の動きなどの情報提供を通じて、住民との信頼関係を構築し、継続的に地域活動を支えています。

地域振興会の具体的活動として、廃校を利用したエコミュージアム川根やガソリンスタンド、スーパールの経営など地域力を利用したの取り組みが参考となりました。



安芸高田市役所にて

◎島根県浜田市

過疎集落活性化に取り組む集落支援員について、島根県浜田市弥栄（やさか）地区を視察しました。人口は約一六〇〇人。限界集落（高齢化率50%以上、戸数19戸以下）6集落、危機的集落（高齢化率70%以上、戸数9戸以下）2集落、高齢化や人口減少により集落機能の維持が課題となっています。

弥栄自治区地域自治機能活性化支援事業は、財源を旧合併市町村の基金を地域振興基金として使用し、高齢化の進展又は人口の減少により地域の活力が低下し、充分な地域自治機能が發揮できない現状を打破するため、当該自治会に対し、住民と行政の対等な協働関係を維持しつつ、補完性の原理に配慮した人的支援及び財政的支援を行うことにより、地域自治機能の活性化を図り、誰もが暮らしやすい地域社会の形成を促進しています。

人的支援として、地域担当制度として27自治会を7ブロックに区分し、弥栄支

所及び弥栄診療所の職員を、ブロックごとに5～6名配置する。地域担当職員は、担当する自治会に行政情報の提供、地域との連携を深めるとともに、地域の現状把握に努め、自治会が主体的に行う地域活性化計画の策定に支援を行い、財政的支援も実施しています。

地域内で若者が活動することによって、地域住民も刺激を受け、高齢者の生き甲斐になっていることなどが参考になりました。

◎山口県宇部市

宇部市が取り組んでいるブランディングプランについて視察してきました。

宇部市は山口県西南部、瀬戸内海に面する山口県有数の工業都市です。明治期以降の石炭産業の隆盛により、一九二二年に市制を施行。戦後、素材供給型化学工業を中心とする臨海工業都市へと変身。その過程で生じた公害や環境問題を官民一体となって克服し、現在は環境共生都市としても広く知られています。



宇部市役所にて

モノ・コト・サービス・行事・観光資源などの個別ブランディングを展開するだけでなく、「宇部市」そのものをブランディングする、ブランド戦略室を設置して取り組んでいることなどの説明を受けました。

財源としては、市の財政負担は伴わないようにするため、地元の企業、商店、団体、個人などの協賛・協力を得ていることなどが参考になりました。

産業建設委員会

産業建設委員長 沼田 喜一

平成21年5月11日～13日

佐賀県 武雄市
熊本県 玉名市

◎佐賀県武雄市

「レモングラスを活用した農産物のブランド化」について佐賀県武雄市を視察しました。

武雄市は、佐賀県の西部に位置し、人口約5万人。武雄市長の樋渡啓祐氏（平成18年4月当時最年少市長として就任）も同席で説明を伺いました。

新・武雄市が誕生した時「何か新しい特産品を！」との声に応えるべく、市長を中心に新たな特産品開発をスタート。中山間地域の遊休農地や耕作放棄地を中心に「収益性の高い、やりがいのある農業の確立」のため、食用・薬用・加工用と多様性のあるハーブの一種「レモングラス」に着目しました。

※「レモングラス」とはイネ科の多年草で、東南アジ

アが原産のハーブの一種。

市長の呼びかけに対して、市内の農家等3組織がレモングラスの栽培を始め、平成20年に栽培農家等が結集して農事組合法人を設立しました。生葉や乾燥・焙煎したレモングラスを地元旅館や物産館などと連携して販売、武雄市内の食品会社等と連携してレモングラスを使ったゼリーやこんにゃく、ところてんなどの加工食品を販売。また、市内の企業が入浴剤を開発するなどレモングラスを活用した農工商の連携が行われ活性化につながっています。販路については、市の職員が自ら営業マンとなり、百貨店・小売店などに赴いています。

市長の発案に、協力した生産者と、それを加工して商品化した地元企業がうまく連携している印象を受けましたが、販売ルートについては、市の職員が開拓しており販路拡大に大変苦労しているようです。当市については、東京に近いのが羨ましいと言われました。新幹線が開業した暁には、



レモングラスを使ったハーブティー

◎熊本県玉名市

「新幹線駅周辺整備とまちづくりについて」熊本県玉名市を視察しました。

玉名市は熊本県の北部に位置し、人口6万9000人で熊本県の北の玄関口あり、玉名温泉があるなど新幹線開業後は当市と類似する点が多い。九州新幹線は、平成23年春に全線開通予定であり、新玉名駅は博多から約76kmで、開通すると約30分～40分で結ばれます。

新玉名駅周辺のまちづくりテーマは、“ひと・自然・文化・広域「ふれあい・交流」拠点の創造”を実現するために、「交流・ふれあい空間の創出」、「県北の

生活文化拠点の創出」、「玄関口の形成」、「ユニバーサルデザインの活用」、「中心市街地のとの連携」を具体的なまちづくりの方針としています。整備する構想区域での地権者との合意問題やこの整備区域が、埋蔵文化財の包蔵地であり、周辺で発掘作業が行われているため、10年スパンの3段階で整備を進めています。また、中心市街地から3kmも離れているところに駅がでるので、中心市街地との結びつきが難しいとの課題もあります。駅舎については、市民も交えた検討会で決めて機構へ伝え、田園の駅、森のなかの駅、おもてなしというイメージでデザインしました。駅の周辺には何もないので、駅舎・高架の下に観光交流センター（400㎡）を併設し（玉名市で整備）、観光案内、物産の紹介・販売、軽食の提供も考えています。地域振興対策については、市民と市役所からなる「九州新幹線活用プロジェクト戦略会議」を設立し、新幹線を活用する施策についての



新玉名駅建設現場にて

検討行っています。また地域一体で観光・物産のPRのため「ヤフードーム観光キャンペーン」を実施しました。駅駐車場の駐車料金については、情報収集中であるが、有料（管理費程度）で運営したいとのこと。またトンネルによる水枯れ問題も発生しています。駅周辺整備事業については、それぞれ特有の苦労がある印象を受けました。駅舎整備については、当市の新幹線駅についても大いに参考になると感じました。当市でも発生している水枯れ問題の取組みについても大変参考となりました。新幹線駅開業まで間もなくですが、観光宣伝など広域での取り組みが、更に重要になってくると感じました。